

H30年度 第3回

「ミニがん教室」開催しました

平成 30 年 10 月 15 日
14:00~15:00

◆テーマ：『放射線治療と日常生活』

★講師：放射線科外来看護師 西村 美知代

★座長：がん診療連携課看護師長 坂口 定子



放射線治療は、からだの外からX（エックス）線や電子線を照射する外部放射線治療と放射性薬品を投与してからだの中から照射するラジオアイソトープ治療（内部放射線治療）に分けられます。治療の約80%が外部照射で、様々な機械や照射方法があります。

治療前の準備では、治療用に撮影したCTを元により正確に病巣を照射できるようにコンピュータ上で治療計画をたてます。

医師の説明で不明点がないか、不安な事や困ることがないか、治療の日程や治療中の注意事項などの説明や、治療が長期にわたるので通院が可能か、経済的な事、その他有害反応（副作用）についての対処方法についてもお話しています。

治療により起こる有害反応（副作用）では、全身倦怠感が60%程度で出現します。治療期間を通し増強する方もいます。これは精神的要因の関連性が研究から示唆されています。

対処方法として、患者の訴え・精神的要因（気持ちの減退・いらだち）などの相談にのることをしています。症状が強いときは他の疾患と鑑別したうえで対症療法（薬の内服など）を行います。他には、放射線宿酔、放射線皮膚炎、口腔粘膜炎、食道炎などがあげられます。

放射線治療で飲み込むことがつらくなった場合、抗癌剤投与によって食欲不振となった場合、体力的にもつらく治療の遅れにもつながります。

- ・食べたい物を食べたい時に食べる。
- ・果物やゼリー・アイス・栄養補助食品を食事と食事の間に食べる。
- ・水分の多い物を摂取する。
- ・硬いものは避けるか、よく噛んで食べる。
- ・海藻類や野菜の皮はつかえやすいので注意する。

など色々な工夫をして、できるだけ口から栄養補給していただく事がとても大切です。と講義を終えました。

会場アンケートでは、「治療を受けたが漠然とした事しか分からなかった。画像をみてとても勉強になりました」との声も寄せられました。

平日にもかかわらず大勢のご参加ありがとうございました。

～次回お知らせ～

（第4回）ミニがん教室

日時： 12月17日（月）

14時～15時

会場： からだの図書館

（がんサポートセンター内）

テーマ：「がんとお金の話」

講師： 当院 社会福祉士

※入場無料 予約不要※

※当院受診歴なしでも参加可※